

【家庭教育支援チーム】

チーム名 (呼称)	泉大津市家庭教育支援チーム (呼称:スマイルサポートチーム)
活動開始年度	平成17年度
活動拠点	泉大津市教育支援センター
活動範囲	泉大津市内全域(泉大津市立小・中学校ならびに就学前施設)
活動財源	<input checked="" type="checkbox"/> 文部科学省補助事業(地域における家庭教育支援総合推進事業) <input checked="" type="checkbox"/> 文部科学省委託事業(先駆的家庭教育支援推進事業) <input type="checkbox"/> 厚生労働省事業(事業名) <input checked="" type="checkbox"/> 地方単独事業として実施 <input type="checkbox"/> 特段の予算措置はないが、自主的に活動を実施 <input type="checkbox"/> その他の支援により活動を実施 ()
組織体制	<u>8 人</u> 家庭教育支援サポートリーダー(1人) 家庭教育支援サポーター(7人)
具体的な活動内容	<input type="checkbox"/> 講座型 <input type="checkbox"/> 拠点型 <input checked="" type="checkbox"/> 訪問型 <input type="checkbox"/> 総合型 <input type="checkbox"/> その他()
	<p>・訪問型家庭支援 学校や福祉部局から教育委員会・教育支援センターに、課題を抱える家庭への訪問型支援の要望があがってきた場合、訪問支援するサポーターとチームリーダーが校内(小中学校)のケース会議に参加し、情報の共有とアセスメントに基づいた「個別の支援計画」を作成の上、学校と役割分担を行いながら、訪問型家庭教育支援を実施している。</p> <p>・学校配置型支援 サポーターを小学校に配置し、児童の登校の様子や授業中・休み時間の様子等から教職員と情報を共有し、課題の早期発見をめざしている。また、気になる児童については、サポーターが放課後等に行われるケース会議等に参加し、学校とともに今後の支援方法について協議を行い、問題行動の未然防止・早期対応に努めている。</p>

	<p>・「親の会」の開催 子育てやしつけに悩みや不安を抱く保護者が集まり交流する場、訪問型家庭教育支援によりエンパワメントされた保護者の「出口の場」として月1回開催し、保護者がつながるきっかけづくりや保護者の自立に向けた継続支援を行っている。</p> <p>・サポーター会議 サポーター会議を月1回開催し、サポーターの各校での取組状況を共有するとともに、今後の支援方針を協議している。会議に府SSWや市基幹型CSWなど専門家も参加することで、関係諸機関及び専門家への接続や福祉的な視点からの助言など、幅広い支援につながっている。</p>  <p>・サポーター研修会 サポーターのスキルアップを目的として、年2回サポーター研修会を市主催で開催している。平成29年度は、本市支援教育担当指導主事を講師として、子ども理解の観点から発達障がいについて学んだ。</p>
<p>活動の成果</p>	<p>・学校の教職員や市職員(教育委員等)とは異なる第三者の立場であるため、サポーターは保護者にとって相談しやすい存在として、家庭に対する支援を行うことができる。このことは、悩みや課題を抱える保護者をエンパワメントしていく上でとても効果があった。特に学校の教職員が動くことが難しい時間帯(朝や授業中、夜遅くなど)でも、家庭の状況に合わせたタイムリーな支援を行うことができることが大きな強みであるとする。</p> <p>・保護者との信頼関係を築くことで、保護者の不安やストレスが軽減され、子育てに向き合うことができるようになった。保護者の気持ちが前向きになることで、親子関係や子どもの問題行動等の改善にもつながった。</p> <p>・登校時、授業中、放課後など学校のニーズに応じた時間帯での臨機応変な配置ができたことで、子どもたちの日常生活の様子の把握が行いやすくなっただけでなく、教員のサポーターに対する認知度や信頼感が増し、気になる児童のことをサポーターに相談しやすい雰囲気となった。</p> <p>・普段の生活からサポーターと児童のつながりが生まれたことは、保護者への支援をスムーズに始めることにつながった。また、学校配置を行うことで、不登校や問題行動を起こすなどの状況が発生する前に、課題を抱える家庭に対する早期の家庭教育支援を行うことができ、課題の未然防止にも効果があったと考える。</p> <p>・学校配置による支援は、課題をかかえる家庭の掘り起こしとスムーズな訪問型支援への切り替えを目的に始めたが、訪問型へ切り替える前に、サポーターが保護者からの相談を学校で受ける機会が増え、気になる児童に対しての見守りを継続しながらすぐに対応できる体制を整えておけるようになった。このように、子どもに課題が大きく出ていない家庭についても、幅広い支援が可能になったのは学校配置によるものと考えている。</p>

活動において苦労した点や課題	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者とのファーストコンタクトが取れない、家庭訪問してもなかなか会うことができない家庭に対するアプローチ ・家庭教育支援サポーターの活用を充実させていくためにも、活用に適したケースを学校がより認識していく必要がある。 ・保護者との信頼関係を築くことは必要だが、必要以上に依存させすぎないことも大切である。保護者がエンパワメントされた際の引き際が重要で、いつまでも「頼られる」存在であってはならないことをサポーターは意識する必要がある。
今後の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校配置型における効果的なサポーターの活用について、実践の継続および好事例の収集を行う。 ・学校配置型によって掘り起こしを行い、より手厚い訪問型による支援に切り替えるだけでなく、訪問型支援によってエンパワメントされた保護者のステップアップとして、学校配置型による継続した見守りへの切り替えも視野に入れて支援の充実を図る。
問合せ先	<p>(部署・氏名等) 泉大津市教育委員会事務局 教育部指導課 (TEL) 0725-33-1131 (E-mail) 非公表</p>